

すばらしいロケーションの学校を体験施設にリノベーション 様々な体験を通じて地元の人たちとわかりあいたい

「素晴らしいロケーションなんです。グラウンドのすぐ下がもう海で。うしろには山桜で有名な山があつて」

藤田講師が熱く語るのは、福井県若狭町神子（ふりがなみこ）にある旧岬校舎のことだ。小学校と中学校（分校）が置かれていたが廃校になることになり、その後の校舎の活用方法について福井工大に相談があつたのが2年前。学内でワーキンググループを作り、地元とも検討を重ねた結果、漁村農村の生活を体験できる施設として活用していくことになった。

藤田講師の研究室では校舎のリノベーション設計を担当。来年度4月からの運用を目指して、実際の工事が始まったところだ。「地元の方の思い入れがある建物なので、なるべく元の形や雰囲気を残しつつ改修しました」一方、絶好の立地を生かしたいと、海を見ながらバーベキューが楽しめるデッキなどは新たに考案した。

「学生たちも実際に設計図を引いたりして、いい勉強になったと思います。細かいディテール部分もひとつひとつ詰めないとダメだとか、予算の関係で出来ないこともあるとか、実務の厳しさも体験して大変だったと思うけど、自分が考えたものが実際の形になるというのは、在学中はなかなか体験出来ないことですから」

「ヘシ」イベント？
藤田講師の専門は、幼稚園や保育園の設計。

「設計に生かすために子どもたちの動きを観察するんですけど、これが面白いんですよ。人がその空間でどう過ごすかを、いろいろ考えるのが好きなんです」

今回も、リノベーションした施設を人々がどう使っていくが重要になる。9月には若狭町と学園の相互連携協定が結ばれ、神子がある常神半島西浦地区の交流促進に力を入れていくこ



とになった。

「デザイン学科として関わっているので、海岸の漂着物を使った漂着物アート展みたいなものもやってみたい。伝統食の「ヘシ」（鯖を糠漬けにした発酵保存食）も地区によって味が違うので食べ比べをしたり。体験施設には魚さばき場があるのでここで作ってもいい。穏やかな海なのでシーカヤック体験とかも出来そうです。ここを拠点にいろんなイベントを行って、西浦地区に人を呼び込めるように考えていきたいですね」

来年度からはデザイン学科の学生ゼミでも、具体的に活用方法を考えていきたいという。**地元を教わりたいことがいっぱいあります**

実際に施設の運用が始まったら地元の人たちとの連携は欠かせない。

「神子は漁業、農業、民宿を営む家が多く、地元の方に教えてもらいたいと思うことがたくさんあります。僕は釣りが好きなので漁のことも知りたいし、梅を取獲するところから始まる梅干しの作り方とか、僕もですが学生たちは体験したことがないんです。全体的に今の学生は、多様な体験をする機会が少なくなっていると思うので、ここで自然に親しみながら体験できると思いますね」

福井工大の学生たちだけでなく、都市部の若者たちなど地元の人たちと交流が生まれ、様々な体験を通じてお互いに考えていることを少しでもわか



旧岬校舎に隣接する海岸の清掃活動